

めぐみイエス・キリスト教会

2021年10月10日(日)第二主日礼拝
週報「通算第578号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.12詩篇第33篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 使徒の働き12章18節～25節(新約p. 259上段)

【礼拝説教】 《ヘロデ・アグリッパ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 「ヘロデ大王(紀元前4年没)」の場合。

※マタイの福音書2章12節～16節「ヘロデ大王と東方三博士」(新約p.3)

2:13 彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」

2:14 そこでヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに逃れ、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「私は、エジプトから私の子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。

2:16 ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かれると激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯の二歳以下の男の子をみな殺させた。

●ポイント2.「ヘロデ・アンティパス(紀元39年没)」の場合。

※ルカの福音書23章6節～9節・12節「アンティパスとピラト」(新約p.169)

23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、

23:7 ヘロデの支配下にあると分かれると、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。

23:8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いていて、ずっと前から会いたいと思ひ、またイエスが行うしるしを何か見たいと望んでいたからである。

23:9 それで、いろいろと質問したが、イエスは何もお答えにならなかった。

23:12 この日、ヘロデとピラトは親しくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

●ポイント3.「ヘロデ・アグリッパ(紀元44年没)」の場合。

※使徒の働き12章1節～3節「教会と使徒たちへの迫害」(新約p.257)

12:1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人たちを苦しめようとしてその手を伸ばし、

12:2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。

12:3 それがユダヤ人に喜ばれたのを見て、さらにペテロも捕らえにかかった。それは、種なしパンの祭りの時期であった。

※ローマ人への手紙10章11節～13節「使徒パウロの勧め」(新約p.314)

10:11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、誰も失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。

10:13 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。

◎先週のメッセージの概要【召使いロデ】

《御使いによって、奇跡的に窮地を脱出したシモン・ペテロは、すぐにも教会に向かいます。そこは、ヨハネ・マルコの母マリアの家でした。

さて、そこでは多くの人々が心を一つにして祈っていました。実は、以前に十二使徒全員が、ユダヤ最高議会によって捕らえられ、牢に入れられたことがありました。この時も教会は熱心に祈っていたのです。不思議な事に、夜の中に御使いがやって来て、彼らは奇跡的に牢から解放されるのです。しかし、今回は違います。すでに使徒ヤコブは殉教しており、捕らえられたペテロは、夜が明けると、ヘロデ・アグリッパによって、大観衆の前で、死刑を宣告され、十字架につけられるのです。まさに、ペテロの命は風前の灯火でありました。教会は、ペテロが以前と同様に奇跡的に釈放される事を祈り続けていたのです。そして、祈りは答えられます。

牢から出たペテロが門の戸をたたくと、ロデという名の召使いが出て来ました。その意味は「ばら」で、彼女も固い信仰を持っていたのです。

ロデは、ペテロの声だと分かったと、喜びのあまり門を開けもせず奥に駆け込み、ペテロが門の前に立っていることを知らせたのです。最初は誰もが信じませんでした。ペテロは門をたたき続け、そこで門を開けると、そこにペテロがいたので非常に驚いた、と言うわけです。なぜ驚いたのでしょうか。召使いロデも、また集まっていた弟子たちも、実はペテロの解放を信じていなかったからです。確かに、教会は心を一つにして熱心に祈り続けていました。しかし、その祈りの裏腹に、あきらめと現実の常識があったことが計り知れます。私たちも同じです。私たちは本当に神様を信頼しているのでしょうか。状況や現実がどうであれ、私たちは神様がおられること、また祈りに答えて下さることを、心から信じているのでしょうか。

もしかしたら、今までの経験や常識が邪魔をしていないのでしょうか。私たちは、恵みによって、神の子どもとされました。神の子どもならば、主イエスの御名によって、父なる神様に祈り求めることが出来るはずです。》

◎お知らせ

※第三主日礼拝は、平常通り10月17日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、10月13日(水)各家庭において行ないます。